

近現代史(18) 19世紀欧米文化史③ ～音楽史・学問・探検～

1. 音楽史

(1)古典派音楽

・18世紀後半～19世紀初 均整のとれた器楽曲が特徴で、ウィーンを中心に展開された。宮廷音楽から市民音楽への移行期の音楽であった。

1. ハイドン	125の交響曲を作曲し近代的ソナタ形式を確立。「交響曲の父」と称される。
2. モーツァルト	子どもの時から才能を発揮した「神童」。軽快なテンポと澄み切った音色が特徴。
3. ベートーヴェン	古典派音楽を集大成。「運命」、「第九」など不朽の名作を残した。

(2)ロマン主義音楽

・古典派音楽を脱皮し、個性・意思・感情を強烈に表現した音楽。19世紀前半～中頃に流行した。

4. シューベルト	近代歌曲の創始者。「美しい水車小屋の乙女」「冬の旅」「未完成交響曲」「魔王」
5. ベルリオーズ	伝統的な交響曲の形式に絵画的・詩的要素を加えた。「幻想交響曲」
6. シューマン	近代的ピアノ技術を開拓。ロマン派の論理的指導者。「流浪の民」
7. リスト	ハンガリー出身。技巧に優れたピアノ曲や交響詩を残した。「ハンガリー狂詩曲」
8. ショパン	ピアノの詩人。1830年、ポーランドにおける対露蜂起失敗に際し、「革命」を作曲。
9. ワグナー	楽劇の創始者。神話を題材に官能的で高揚感に満ちた作品。「ニーベルグンの指輪」「タンホイザー」

(3)国民楽派

・民謡などに題材を求め、民族的伝統を表現しようとした音楽。

10. ムソルグスキー	ロシア・ギリシアに並ぶロシア国民楽派。ロシア的リアリズム。「展覧会の絵」「ホルス=ゴドノフ」
11. チャイコフスキー	叙情性に溢れる美しいメロディーが大きな特徴。「くるみ割り人形」「白鳥の湖」
12. スメタナ	チェコ民族運動に参加。民族性溢れる作品を生み出す。「我が祖国」。

(4)印象派音楽

・19世紀後半から始まり、現代音楽の源流の一つとなった音楽。和音やメロディーそのものが持つ情感を豊かに描いた。

13. ドビュッシー	ピアノ技法を駆使した独自の和音・旋律を創造。「映像」「牧神の午後への前奏曲」
------------	--

2. 学問

(1)ドイツ観念論およびその周辺

13. カント	合理論と経験論を批判的に総合。三批判書を書き、批判哲学の祖とされる。
14. フィヒテ	カントの実践理性の思考を強化。主観的観念論を樹立。「ドイツ国民に告ぐ」
15. シェリング	観念論から出発。精神と自然の合一に知識は基づくとする同一哲学を説く。
16. ヘーゲル	弁証法哲学を提唱し、ドイツ観念論を体系化。「歴史哲学講義」
17. フォイエルバッハ	ヘーゲル左派。存在が認識を規定するという唯物論を主張し、マルクスに影響を与える。
18. ショーペンハウエル	厭世主義者。「世界の本质は盲目的な生への意志である」と説く。

(2)マルクス思想

☆ドイツ観念論哲学、イギリス古典派経済学、フランス空想的社会主義を研究批判して壮大な思想体系を確立する。

- ・哲学：弁証法的唯物論
- ・歴史学：唯物史観
- ・経済学：剰余価値説
- ・実践論：科学的社会主義

マルクス主義

☆[19. 唯物史観](史的唯物論)

・歴史の発展法則を弁証法的唯物論の立場から解明する。生産力と生産関係の矛盾から発生する階級闘争を社会発展の原動力とする。

(3)イギリス功利主義

20. ベンサム	人生の目的は幸福。量的に測定可能であり、最大多数者の最大幸福が社会発展に繋がる
21. J=S=ミル	幸福の質的な側面に着目。満足した豚であるよりも、不満足なソクラテスの方が良い。

(4)社会学

22. コント	実証主義哲学を創始した。「社会学の祖」とされる。
23. スпенサー	功利主義と進化論を結合して社会進化論を唱えた。

(5)実存主義…人間を合理的に説明できない非合理的なものとして捉え、不安・絶望の中から主体的な在り方を探る。

24. キルケゴール	実存主義の先駆者。如何にして神の前に一人で立つキリスト者になるか？
25. ニーチェ	苦痛の生を克服して常に力強く自己の向上を目指す超人を説く。キリスト教は奴隷道徳。

(6)心理学

26. フロイト	心理現象を性欲と自我との葛藤とし、精神分析学を創始した。
----------	------------------------------

(7)経済学

・ (a)マルサスとリカードの[27. 穀物法論争]

▶[28. マルサス]は地主階級の利益を代弁し穀物法を擁護。農業を保護し、穀物価格を高値で安定させることが、農業投資を促進すると考えた。高い穀物価格は地主の得る地代を上昇させる。これが工業への有効需要を生み出すことになると主張した

▶[29. リカード]は産業資本家の利益を代弁し穀物法撤廃を主張した。国際分業論を展開。安価な穀物の輸入⇒穀物価格の低下⇒賃金の低下(労働者は安くパンを買えることができ資本家は支払う賃金を低下することが出来る)⇒高利潤⇒資本蓄積の促進⇒経済成長。

・ (b)マルクス経済学

▶資本家は労働者が支払われた賃金以上に作り出した価値を利潤として搾取しているとした。

・ (c)[30. 歴史学派経済学]

▶代表者[31. リスト]。経済発展を歴史的に考察しようとする経済学。経済の発展段階説を唱え、経済的後進国では古典派経済学が唱える自由貿易ではなく、保護貿易政策が必要だと説いた。

3. 探検

科学や技術の進歩に対応して、世界各地の探検がヨーロッパ人により進められる。

32. タスマン	オランダ	タスマニア島・ニュージーランド・フィジーに到達。
33. クック	イギリス	太平洋をベーリング海峡からニュージーランドまで探検。ハワイの先住民に殺される
34. ヘディン	スウェーデン	中央アジアを探索し、楼蘭遺跡を発見した。
35. リヴィングストン	イギリス	南アフリカ奥地を探検。ヴィクトリア瀑布を発見。迷子になりスタラーに発見された。
36. スタンリー	英→米	リヴィングストン救出。コンゴを探検。
37. ピアリ	アメリカ	北極点の初到達に成功。
38. アムンゼン	ノルウェー	南極点の初到達に成功。
39. スコット	イギリス	アムンゼンに1ヶ月遅れて南極点に到達。帰途、遭難した。